

【最優秀賞】

【水の恵み】

設楽町立津具中学校 二年 村松 真波

私が小学生の頃から毎年、蒲郡のみかん農家さんからおいしいみかんをいただいています。しかし、どうしてみかんをいただいているのか、気にもとめていませんでした。みかんと一緒に付いてくるメッセージには、「いつもきれいな水を届けてくれてありがとう。」と、書かれています。そのメッセージにどのような意味があるのか、考えてみました。

私の住んでいる北設楽郡設楽町津具の標高は、約七百メートルあります。標高が高いので、夏は涼しく、冬は寒いです。夏は川で鮎のつかみ取りをしたり、川遊びをしたりします。川で取れた鮎はとてもおいしいです。きれいな川だからこそ、おいしい鮎が育つのです。そして、きれいな川だからこそ、毎年、川遊びをしたいと思えるのです。また、初夏の夜には、蛍が飛んでいるのを見て、楽しむこともできます。蛍はきれいな川でしか生きられない生き物です。私はそのようなきれいな川が流れる地域で生活しています。

私の町の川の水は、下流域に住む人たちへと届きます。その水を使って、農作物を育てたり、元気な家畜を育てたりするそうです。蒲郡のみかんもこの水を使って、作っているそうです。おいしいみかんを育てるには、きれいで豊富な水が必要です。私たちがみかんをいただけているのは、川の水がきれいな状態を保っていることに感謝してくださったのだと分かりました。川がきれいに保たれていることがどれほど大切なことなのかを、改めて実感しました。

しかし、きれいな川でも人の力で簡単に汚れてしまいます。そこで、津具中学校ではきれいな川を保つための活動として、年に一回河川清掃を行っています。川の中や周辺のごみ拾いを親子で行う活動です。毎年清掃を行っているため、ひどい汚れはありません。けれども、よく探すと流されてきたプラスチックごみや空き缶、農作業用のネットなどがありました。これらは人が出したごみです。このようなごみを川に捨てな

いという、一人一人の意識が大切だと思いました。河川清掃をしていると、生物が生きやすい環境をつくっていると感じ、とてもうれしい気持ちになります。今年度の河川清掃も、真剣に取り組みたいと思います。

私は設楽町津具の川がいつまでもきれいな状態であってほしいと思います。川がきれいなことで、笑顔になる人がたくさんいます。そこで、私たちが川の水を汚さないようにするためにできることを、二つ考えました。

一つ目は、川の清掃です。津具中学校には河川清掃がありますが、やはりそのような活動はとても大事だと思います。たまに川を見ると、ごみが浮いているのを見ます。年に一回だけでなく、活動をもっと増やしていきたいと思います。

二つ目は、家庭からごみや汚水を川へ流さないことです。プラスチックごみなどは、絶対に川に流してはいけません。また、料理などで出る油や米のとき汁を流さないようにする工夫も必要です。油は、キッチンペーパーでしっかりと拭き取ってから食器を洗うとよいと思います。米のとき汁は、そのまま捨ててしまうのではなく、苗木や鉢植えなどの水やりに使うとよいです。他にも、洗濯や掃除に使うという方法もあります。このように、川の水をきれいに保つための方法を考え、みんなで実行していけるとよいと思います。

水は生きていく中で必ず必要なものです。私はこれまで、水について深く考えることはありませんでした。私のような人は多いと思います。最後になりますが、この作文を読んでもくれた人たちが少しでも、「川の水を汚さないために水を再利用しよう。」と、意識してもらえたらうれしいです。私は、水一滴を大切にして川の汚れにつながらないよう、これから生活していきたいと思います。